

令和5年度 自己評価表

※評価基準： A＝達成できた
 B＝おおむね達成できた
 C＝ある程度達成できたが改善が必要
 D＝達成できなかった
 （構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。）

重点目標 1 安全・安心な学校づくり

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
小学部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続・新規)	1 安全管理の徹底 ・事故防止のための児童の実態把握及び教員間での共通理解を図る。また、必要に応じて、対応についての検討会を実施する。 ・事例の情報提供や注意喚起のメール送付により、教員に対する教育環境整備への意識付けを図る。 2 防災・安全教育の充実 ・学年や実態に応じた「自分の身を守る行動」を目指し、模範やイラスト等の視覚支援を使用した分かりやすい支援を行う。 ・防災訓練の様子をブロック便りなどに載せることで、保護者への啓発を行う。	B	A : 46% B : 54% C : 0% D : 0%	評価項目 (1) A : 70% B : 25% C : 3% D : 0% E : 2%	反省・課題	1 2学期に、児童の衝動的な行動による窓ガラスの破損等の事故があった。児童生徒の実態を考慮して事前に怪我を防ぐよう対応をしていなかった場所があったことが、事故発生後に判明した。 2 火災に関する防災訓練を行い、クイズ形式の事前学習では興味を持って参加することができたが、ヘルメットやリュックを身に付けずに避難する児童がいた。ブロック便りにて、防災訓練の様子を紹介し、保護者へ働きかけることができた。
		・安全管理に関して教員間で共通理解を図り、ヒヤリハットの防止に努める。 ・防災・安全教育において「自分の身を守る行動をとる」ことのできる児童の育成を目指す。					改善策	1 今まではなくともどの学級にも起こりうる出来事と捉え、リスクのある教室の窓ガラスに緩衝材を貼るなどの対応を行った。今後も管理の徹底を図っていく。 2 「頭を守る（だんごむしのポーズ）」「ヘルメットや防災リュックを身につける」「スムーズに避難する」など「自分の身を守る行動」を増やすための分かりやすい指導を継続する。災害によってとるべき行動を丁寧に指導する。
保健指導部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続・新規)	1 校内のイラスト掲示の整備や事前事後学習の資料作成・整理などを行い、児童生徒にとってわかりやすく興味をもって取り組めるよう支援を行う。 2 防災に関する行事の前後だけでなく、月初めの安全点検日に定期的に伝えたり校内を回る際に一緒に掲示物を確認したりするなど、児童生徒が防災についての話を聞いたり資料を見たりする機会を増やす。	B	A : 64% B : 35% C : 1% D : 0%	評価項目 (1) A : 70% B : 25% C : 3% D : 0% E : 2%	反省・課題	・校内のイラスト掲示の整備をしたり、児童生徒や教職員にとってわかりやすい事前事後学習資料を作成したりすることができた。いろいろなケースを想定した資料を今後も作成していく。 ・取組目標2については行事前後以外に周知する機会が少なかった。
		・防災訓練、初期対応訓練、日頃の指導を通し、児童生徒が災害から自分の身を守る手段を身につけられるようにする。					改善策	・防災に関する話題を児童生徒に伝える日（防災訓練、初期対応、防災週間、月初め等）とテーマ（階段で地震が起きた場合の初期対応等）を具体的に決め、防災についての話を聞く機会や資料等を目にする機会を増やし、その時にどのような行動を取ったらよいのか児童生徒が自ら考えたり判断したりできるようにつなげる。
保健指導部	1 安心・安全な学校づくり ②心身の健康を守る保健・安全教育の推進	(継続・新規)	1 感染症予防の観点も踏まえた清掃方法や、重点的に清掃する箇所（例：冬季 コンセント周りの埃除去）を校内放送や掲示板で周知する。 2 健康な食事について児童生徒と一緒に考えられるよう、月に3回以上給食に関する話題を提供したり、HPや食育だよりでも周知したりする。	B	A : 51% B : 48% C : 1% D : 0%	評価項目 (2) A : 55% B : 37% C : 7% D : 0% E : 1%	反省・課題	・清掃時の放送で清掃の要点を伝えたり、感染症について連絡する際などに日頃の清掃の重要性を繰り返し伝えたりすることで共通の意識をもって取り組めた。 ・健康な食事や行事の際の食べ物、身近でとれた食物などについての話題を係や部内で周知できたが、学級担任等から児童生徒へ伝えられたかを確認することができなかった。
		・児童生徒の心身の健康と安全を目指し、教職員が清掃や食育に関する共通の意識をもって取り組めるようにする。					改善策	・清掃、給食ともに教職員に伝える機会を増やしたり要点を絞って伝えたり意識をさらに高められるようにする。給食については児童生徒の変容などを確認し、今後に生かせるようにする。

生徒指導部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続)・新規) ・児童生徒の登下校時及び休日中の事件や事故を未然に防ぐために、児童生徒に対する指導の充実や教職員、保護者への啓発を含めた指導体制を整えて指導にあたる。	1 年間を通して教職員による登下校時の通学指導（スクールバス車中指導及びバス停巡回指導や単独通学生対象の駅指導、通学路立哨指導、ロータリー誘導等）を行う。 2 構内の入退構やスクールバス待機時についてのルールを生徒指導だより等で丁寧に説明し、事故のないように誘導する（バス停巡回指導：5月・9月の実施、構内安全強化週間：6月・10月の実施）。 3 無断外出時捜索訓練や不審者対応研修を実施し、児童生徒の危険を防ぐ知識や技能を学ぶ。 4 保護者会等における丁寧な説明や生徒指導だよりの発行、HPでの掲載等を行うことで安全教育の啓発を行う。	B	A : 59% B : 40% C : 1% D : 0%	評価項目 (3) A : 62% B : 32% C : 3% D : 2% E : 1%	反省・課題	・年間を通して行う通学指導の他、問題発生時にはその都度臨時の指導等を行ってきた。即時対応を心掛け、問題が発生した際は早急に対応を行った。解決できた事案、経過観察中の事案等あり、今後も継続した対応を行わなければならない。 ・登下校時及び休日中の事件や事故の他に、校内で起こり得る事件や事故（不審者対応や無断外出、スクールバスのトラブル）について、保護者への説明や教職員に対する定期的な全体での共有を積極的に行う必要があった。
							改善策	・事件や事故、問題となる行為が発生した際、情報の共有を徹底し、対応を行う。掲示板等を活用して定期的にマニュアルの掲載や周知を行い、教職員の意識向上を図る。 ・保護者への説明や啓発活動を積極的かつ丁寧に（保護者会、一斉メール）。事件事故の報告、いじめ、虐待等に関する事前ガイダンス等を行い、本校における取組や法令に基づいた対応について説明し理解を図る。
事務部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続)・新規) ・危険個所の修繕、改善を実施する。	1 安全点検等で報告のあった破損個所や危険個所について、緊急度等を勘案し、予算の範囲内で修繕等を実施する。 2 予算不足等により、直ちに実施出来ない箇所については、本庁と協議の上、早期の実施を検討する。	B	A : 41% B : 57% C : 2% D : 0%	評価項目 (4) A : 48% B : 40% C : 6% D : 0% E : 6%	反省・課題	・体育館の床の滑り防止要望対応のためワックスがけ等を予定するが現状確認した結果、予定した作業では新たな危険を起こすことあるため新たに改修案を検討をする。
							改善策	・改修案に対し運営費の不足する場合、本庁と協議をする。

重点目標 2 学習指導の充実

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
小学部	2 学習指導の 充実 ②自立と社会参 加に向けたキャ リア教育の推進	(継続 ・ 新規) ・キャリア教育の理解と課題研究課 題Cでの取組の実践の推進を図る。	1 キャリア教育の理解 ・課題研究日の学年やブロックの集まりを通して、キャリ ア教育への理解を深める。 2 課題研究の取組の実践 ・各ブロックのテーマを決め、授業評価シートを活用しな がら実践を行う。 ・授業で取り組んでいる様子について、個別懇談やブロッ ク便りなどを通して保護者に伝える。	B	A : 46% B : 50% C : 4% D : 0%	評価項目 (6) A : 57% B : 34% C : 4% D : 1% E : 4%	反省・課題	1 学校課題研究日の課題研究Cキャリア教育についての説 明を聞いたり、学年での話し合いを行ったりする中で、理解を 深めることができた。 2 各学年の対象児童について、動画での指導の様子や授業 評価シートを基に話し合いを行った。 3 ブロック便りにて、低学年、中学年の取組について紹介 することができた。
							改善策	1 今後も学年での話し合いなどを通して、キャリア教育の理 解を深める必要がある。 2 話し合いの結果を受けて、継続して実践を行う。
中学部	2 学習指導の 充実 ①ICTを活用した 指導の充実	(継続) ・ 新規) ・ICTを活用した授業を推進し、学 習指導の充実を図る。	1 ICT活用に関する教材や良い活用事例を学部会で具体 的に周知することで、情報や教材の共有を行い、教員同士 が互いに学び合って取り組めるようにする。 2 9月保護者会でICT活用についての授業参観を設定し たり、学年便りへの掲載や懇談での周知をしたりする。 3 活用した教材やアプリについて情報部の取組と関連付 けながら、フォルダ等に整理し、教材の共有を図り、教員 同士の学び合いを促す。 4 ICT活用に関する単元を見直し、学年間のつながりや 系統性を協議しながら年間指導計画に位置付ける。	B	A : 46% B : 53% C : 2% D : 0%	評価項目 (5) A : 50% B : 35% C : 5% D : 2% E : 8%	反省・課題	1 学部会(月1回)のほぼ全てで、ICT関連の教材や活用 方法について関係職員から紹介があり、学びや活用のきっか けとなった。企業が一般公開する授業教材へ初めて申請を行 い、実際に授業で活用した。ICT関連の教材活用の幅を広げ ることができた。 2 9月の授業参観で、ICT活用に関する授業を全学年全学 級で実施し、学校の取組や生徒の様子を保護者に見ていただ けた。 3 情報部の先生を中心に教材が蓄積され、授業での活用も 年々増えている。
							改善策	1・3 企業が一般公開する授業教材は年々増え、本校でも 活用できるものがある。情報収集を定期的に行い、授業の目 標や生徒の実態によく照らし合わせながら教材を吟味し、今 後も活用していく。 2 ICT利用の様子を個別懇談で取り上げ、学校の取組や生 徒の様子を今後も保護者へ具体的に伝える。
高等部	2 学習指導の 充実 ②自立と社会参 加に向けたキャ リア教育の推進	(継続) ・ 新規) ・作業学習の中で、自分の活動(役 割・得意なことなど)に主体的もし くは生徒同士や教師と関わりながら 取り組むことができるよう、学習内 容や支援について検討する。	1 作業班で生徒が主体的に取り組めるよう実態を把握し ながら活動や支援方法について検討、指導実践。 2 課題研究を通して活動や支援方法について、見直しをし ながら作業実践。 3 各班の活動と中学部作業学習での取組を把握し、今後の 連携につなげる。	B	A : 49% B : 50% C : 2% D : 0%	評価項目 (6) A : 57% B : 34% C : 4% D : 1% E : 4%	反省・課題	1 1学期に各作業班にて実態把握及び授業実践を行った。 学校課題研究日に学部研修及び作業班ごとに授業評価シート による授業の見直しなどを実践した。1年生の作業決定に合 わせて教員の配置が決まったため、指導体制がとれるまでに 時間を要した。 2 中学部との連携については、今実践している作業内容な どについてまとめた。作業班以外でも連携をとりながら進め ている。中学部との連携を基にしながら、生徒の実態に応じ た作業の見直しを継続していく。
							改善策	1 全員での授業担当、実践、課題研究を中心とした見直し を継続していく。 教員全体での作業学習を進められるように、年度初めに作業 班の体制を整える。 2 重複障害学級生徒が実践している作業内容の確認をし、 中学部との連携を基にして生徒の実態に応じた見直しを行っ ていく。実際の取組を教員間で共有し、活用する。(作業班 紹介、教員向け作業班説明など)
訪問 教育学級	2 学習指導の 充実 ②自立と社会参 加に向けたキャ リア教育の推進	(継続 ・ 新規) ・キャリア教育の視点に基づくR5年 度の自立活動年間計画の見直しを行 い、R6年度に向けた 個々の自立活 動の年間計画の作成を行う。 ・授業実践や検討会を通して教師の 授業等の質の向上を図る。	1 自立活動目標設定シートを使った個々の目標等と自立 活動の年間計画の確認及び検討(～7月) 2 検討会を通して、教師間での共通理解を図ったり、学 習内容や教材等の検討や情報交換をすすめたりする。(～ 9月) 3 実践後の検討会を定期的に行い、内容の見直し、教材 の改善などを行う。(～12月) 4 3までの話し合いをもとに次年度の自立活動の個別の 年間計画を作成する。(～2月)	B	A : 46% B : 54% C : 1% D : 0%	評価項目 (6) A : 57% B : 34% C : 4% D : 1% E : 4%	反省・課題	・研修会を通して訪問教育学級のキャリア教育の理解を深め ることができた。 ・児童生徒全員の指導について映像記録を基に成果を話し合 うことができた。また、更に手だてを工夫して、継続した指 導に生かすこともできている。 ・検討を重ねて、令和6年度の自立活動年間計画を作成する ことができた。
							改善策	・今年度作成した年間計画を基に、児童生徒の実態に応じた 個別の年間計画を作成していく。

学習指導部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規) キャリア教育の理解を促進し、学習指導の充実を図る。	1 キャリア教育についての資料や実践例を共有しキャリア教育の理解を深める。 2 進路指導部と連携しながらキャリアパスポートに綴る様式等について検討し、綴る内容や活用方法を共通理解することでキャリアパスポートの活用を促進する。 3 課題研究B、Cと関連付けながら、教科等部会で各教科や各教科等を合わせた指導などの単元の学習内容について、各学部間のつながりを意識した見直しの検討を行うことで、キャリア教育の視点の共有を図る。 4 キャリア教育に関連する学習活動についてホームページ等で情報発信することで学校や家庭においてキャリア教育についての理解と協力連携の促進を図る。	B	A : 42% B : 57% C : 1% D : 1%	評価項目 (6) A : 57% B : 34% C : 4% D : 1% E : 4%	反省・課題 1 キャリアパスポートの意義や活用の仕方について伝達し、学部で取り組んだ。また、その様子や意義についてHPでの発信を開始した。 2 教科等部会の実施について、学部内の学年や学部間における学習内容や目標のつながりについて話し合いを行った。 3 学校評議員会で本校のキャリア教育の取組について説明し、意見をいただいた。またその内容を教員間で共通理解したり、HPで各学部の取組を公開したりすることができた。
							改善策 1 進路指導部と連携しながらキャリアパスポートに綴る内容について各学部で現状を確認し、進路に関する内容も取り入れるなどして系統的な振り返りができるように検討していく。 2 教科等部会で検討した内容を各学部間で共有し、学部間のつながりに視点を置いた学習内容の見直しにつなげられるようにする。 3 進路指導部と連携しながら、キャリア教育の取組についてHPや進路便りで伝達し、教職員や保護者の理解を深めていく。
情報部	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続)・新規) ・手軽にICTを使った学習ができるように、ICTを活用した学習環境の拡充を図る。	1 教職員がICTを活用した教育を実践していくための情報提供を行う。 ・ICT支援員と連携し教材の開発や資料集めを行う。 ・授業の実践例や教材フォルダやインターネット上にある様々な学習教材の紹介を行う。(毎月学部会で) ・高教研情報教育分科会と連携し、情報教育全体計画を作成する。 「学習指導部と連携」【情報教育係】 2 情報機器の管理、メンテナンスを行い不具合時の速やかな対応を行う。【情報視聴覚機器係】 3 ICT教育の取組を保護者に周知し、理解を深めていただく。【HP・広報係】	B	A : 48% B : 50% C : 2% D : 0%	評価項目 (5) A : 50% B : 35% C : 5% D : 2% E : 8%	反省・課題 ・情報機器の保守点検を予定通り実施した。また、不具合が起きた場合も係で速やかに対応することができた。 ・学部会や校務支援システムの掲示板などで教材を紹介することができた。 ・情報教育全体計画は年度末までに作成予定。 ・HPでのICTの取組をいくつか紹介することができた。
							改善策 ・情報機器の不具合の発見のため、今後も定期的に保守点検を行っていく。 ・ICTを活用した教育を実践していくために教材や授業例の紹介を継続して行う。 ・学部ごとに段階にあった指導を行えるように、情報教育全体計画を周知していく。 ・保護者向けに、今後も継続して各学部の取組をHPで伝えられるようにしていく。

重点目標3 地域とともにある学校づくり

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
高等部	3 地域とともにある学校づくり ① 家庭や地域社会との連携	(継続 ・ 新規)	1 作業学習等の学習の中で、地域と連携を行い生徒主体の学習を展開する。 2 コロナ禍でのこれまでの地域とのつながりやコロナ前の取組について確認する。あわせて、地域連携係、進路指導部と連携し、作業学習等で関わりのある関係機関のニーズを把握する。 3 学習の中で取り組む内容を年間指導計画と照らし合わせて見直し、実践する。 4 次年度の年間指導計画を作成する。	B	A : 50% B : 50% C : 0% D : 0%	評価項目 (7) A : 56% B : 38% C : 3% D : 1% E : 3%	反省・課題	1 作業学習の中で地域と連携のもとで授業を実践した。継続した取組が中心である。縫製班についてはニーズに応じた作品制作を行った。紙工班については進路指導部と連携した結果、名刺の販売量が増加した。 2 新しい作業内容の取組を進めるとともに、学習内容の整理や年間指導計画の見直しに取り組む必要がある。
		・学習活動の中で、地域とつながりをおとした体験的な学びを実践する。					改善策	1 現行の作業、ニーズに応じた実践の継続した取り組みの継続。 2 次年度に向けて、学習内容の整理と年間指導計画を見直しを作業班などで行う。
進路指導部	3 地域とともにある学校づくり ① 家庭や地域社会との連携	(継続 ・ 新規)	1 保護者、地域に向けて進路指導に関する情報をホームページ（年10回更新）と進路便り（年4回）で発信し、進路指導等の取組についての理解を深める。 2 福祉施設や企業等と連携し、職員体験研修を実施する。研修で学んだことを児童生徒の支援や進路指導に活かす。 3 福祉施設や企業等の職員に、授業見学や生徒との関わりをもつ機会を設け、児童生徒理解を深めていただき、児童生徒の生徒の学習意欲向上に繋げる。	B	A : 66% B : 33% C : 2% D : 0%	評価項目 (8) A : 56% B : 38% C : 2% D : 1% E : 4%	反省・課題	1 HPについて、12月末時点で9回更新済である。また、情報部と連携し、本校とつながりのある福祉事業所のリンクを添付しており、今後も随時増やしていく。 2 夏季休業中に、企業、福祉事業所での希望研修を実施し、24名の教職員が参加した。2学期から児童生徒の支援や進路指導に活かされたかについてアンケート調査を行った。 3 企業、福祉事業所が作業見学や生徒との関わる機会を8回設けた。
		保護者や福祉施設、企業等との連携を深め、進路指導の充実を図る。					改善策	1 保護者に関心をもってもらえるような内容を今後もアップしていく。福祉事業所等のリンクも随時増やしていく。 2 アンケート調査結果等を基に、研修内容を改善する。 3 児童生徒の意欲向上につながるような見学や関わりを随時続けていきたい。
渉外部	3 地域とともにある学校づくり ① 家庭や地域社会との連携	(継続) ・ 新規)	1 より多くの方に参加していただけるように丁寧な説明を行い、活動しやすい方法を検討していく。（リサイクル活動、ベルマーク活動、イエローレシートキャンペーンの店頭活動、おおぞら会の活動内容等をHPやたよりで発信する） 2 保護者の声に耳を傾け、進路指導部や地域支援部、保健指導部と連携しながら、保護者の求めている情報を教職員と共有し、発信できる活動を企画実施、見直しをする。（地域の施設情報、卒業生の声、食育・性教育の研修、「OSM（教えて先輩ママさん）の会」等）	B	A : 57% B : 42% C : 1% D : 0%	評価項目 (7) A : 56% B : 38% C : 3% D : 1% E : 3%	反省・課題	1 役員や実行委員だけでなく、ボランティアを募る機会を設けたところ、多くの保護者の方が協力してくださり、保護者同士の交流も少しずつ増えてきた。 2 子どもの様子を見たい、他学部の様子を知りたいといった保護者の要望に応えながら、活動しやすい方法を工夫することができた。
		PTA活動やおおぞら会（卒業生と親の会）についての理解を深め、保護者同士や地域とのつながりが深まるような取組を行う。					改善策	・多くの方に学校や地域、PTAの活動の様子を知っていただき、保護者からの提案や御意見を可能な範囲で反映しながら、活動の充実、改善に努めていきたい。

地域支援部	3 地域とともにある学校づくり ①家庭や地域社会との連携	(継続 ・ 新規) ・ 特別支援教育のセンター的機能を強化し、地域のニーズに応じた指導や支援の充実を目指す。	1 学校説明会を円滑に実施し、地域に対し情報提供や支援を行う。 ・ 市町の教育委員会や関係者に対し本校の教育や児童生徒の実態の理解を深め、適切な就学や転学につなげる。 ・ 保護者からの相談に丁寧に対応し、ニーズに応える。 2 地域の小中学校、義務教育学校や高等学校に対し障害のある児童生徒の教育についての支援を行う。 ・ 地域の学校からの支援要請を受け、各校の要請内容に応じた情報提供や助言を行う。 ・ 地域の幼児保育施設や小中学校の教職員を対象に、本校の専門性を活かした研修会を開催する。	B	A : 53% B : 46% C : 1% D : 0%	評価項目 (8) A : 56% B : 38% C : 2% D : 1% E : 4%	反省・課題	1 各学部とも、予定通りに説明会を実施できた。細かな反省点は共通理解を図り、次年度につなげていく。学部主事を中心に各市町の教育委員会と連携を図り、お互いに情報交換を行うことができた。 2 小学校・義務教育学校15件、高等学校3件の支援要請を受け実施した。また、夏休み中に、「特別支援教育研修会」を開催し、幼保、小学校の先生方の研修の機会とすることができた。
		改善策	1 今後も説明会や個別の体験学習等で、適切な就学や転学につなげていく。 2 支援要請の内容や目的等を踏まえ、できるだけニーズに合った教員が訪問し支援や助言を行うようにしていけるとよい。研修会に関しては、アンケートや参加者のご意見等を参考に、今年度中に次年度の研修内容や方法に関して検討していく。					
地域支援部	3 地域とともにある学校づくり ②豊かな生活のための外部資源の活用	(継続 ・ 新規) ・ 地域の力を教育活動に生かし、児童生徒の学びの充実を図る。	1 「地域をきれいにし隊」の活動を通して、地域の方々との関わりをもち、体験的な学びを実践できるようにする。 ・ 特別活動係と連携をし、児童生徒が自発的な興味関心に基づいて動き、主体的な学び、対話的な学び、深い学びにつながるようにする。 ・ 地域の方々のニーズに耳を傾け、共に学びあえるような機会とする。 2 下野市社会福祉協議会ボランティアセンター等の外部資源を活用する。 ・ 各学部の要望に応じて、地域のボランティアを依頼し、教育活動の充実を図る。	B	A : 52% B : 46% C : 2% D : 0%	評価項目 (7) A : 56% B : 38% C : 2% D : 1% E : 4%	反省・課題	1 「地域をきれいにし隊」では、地域の方と触れ合ったり保護者の協力を得たりしながら活動を実践することができた。児童生徒間の連携を図り対話的な学びの実践にもつながった。地域の方から感謝の言葉を直接いただく機会があったことで、生徒達は達成感を感じられたようである。 ・ 地域のニーズを受け、高等部音楽部、生徒会等が地域の行事に参加した。有意義な活動となったが、土日の行事であることや学校行事等を踏まえ参加できるか検討していく。 2 今年度ボランティア受け入れが始まった。外部資源の活用に向けてより良い方法を検討していく。
		改善策	1 各作業班や児童生徒会が次年度も継続ができるか、別の取組方法がないか等を検討する。 2 ボランティアについては、実施したボランティア団体の情報を職員で共有するなどして職員周知していく。					

重点目標 4 教職員の人材育成と専門性の向上

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
中学部	4 教職員の 人材育成と専門性 の向上 ①学び続ける教 職員による授業 力の向上	(継続 ・ 新規)	1 学部で自立活動の研修実施や研修資料等の配布を行い、自立活動の理解を深める。 2 自立活動目標設定シート作成後、実際の指導や手立てを想定しながら、小グループで目標設定シートの内容を具体的に吟味する。 3 定期的に学習評価を小グループで行い、生徒の学習の改善と教師の指導の改善につなげる。 4 計画（目標設定シートの作成や見直し）、実践、学習評価（学習の改善、指導の改善）を繰り返し、自立活動の理解や実践力の向上につなげる。 5 自立活動の視点に基づいた指導や関わりを授業の中に組み入れ、授業の質の向上につなげる。	B	A : 43% B : 57% C : 0% D : 0%	評価項目 なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	1 5月に自立活動研修会の実施や通年での関係資料の回覧を行い、自立活動の知識理解の向上に努めた。また、校外の自立活動研修に多くの教員が自主的に参加し、学びへの意欲が見られた。 2 自立活動の指導目標や指導方法の立案の際、学級内、学年内で協議することができた。指導後、評価と改善を行い、指導の手立てや内容をより良くすることが課題である。 5 行動問題のある生徒への対応について、中心的な課題は何かという自立活動の視点をもとに教員間で協議をすることができた。
		・自立活動の理解と指導の充実を推進し、生徒理解や授業力の向上を図る。					改善策	1 関係資料の配布を今後も継続し、自立活動の理解を深める。 2 教育研究集会課題研究Aの取組による自立活動目標検討会に加え、学年会等で自立活動に関する手立てを検討する機会を設ける。特に若手の教員へのサポートを行い、生徒理解を深め、組織的な指導の充実につなげる。
教務部	4 教職員の 人材育成と専門性 の向上 ②組織力向上を 目指した協働体 制の確立	(継続 ・ 新規)	1 Teams等を積極的に活用し、係の業務遂行状況を係間、部内で共有する。 2 夏、冬の休業中に部内での業務伝達会を開催し、各係の主要業務に関する共通理解を図るとともに、部全体として専門性を高められるよう務める。	B	A : 49% B : 50% C : 1% D : 0%	評価項目 なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	1 各係での業務の状況が分かってよかった。また、係ごとにTeamsを作って活用できた。 また、連絡以外のTeamsの利用法を考えていくと、より便利に活用できるかもしれない。 2 8/10、1/9と年2回実施した。各係の取組の一部ではあったが、業務の流れ等に関し共通理解を図ることができた。
		・教務部としてのまとまりを意識し、係間の意思疎通を高めていく。 ・部内各係業務に対する理解を深め、専門性の向上及び円滑な業務運営に努める。					改善策	1 取組を継続していく。係チームを中心に積極的な発信を増やせるよう努めるとともに、連絡以外の活用方も考え、より有効に活用していく。 2 長期休業中を基本に設定し、次年度も継続して実施していく。毎年の実施で内容的には重複も考えられるが、業務の重要性、人の入替りも考慮して継続し、より専門性を高められるようにする。
学習指導部	4 教職員の 人材育成と専門性 の向上 ①学び続ける教 職員による授業 力の向上	(継続 ・ 新規)	1 自立活動目標設定シートの活用や作成について研修を実施し、個別の指導計画への個に応じた目標設定に結び付けられるようにする。 2 自立活動指導充実事業において専門家出席による事例検討会を年3回実施し、指導助言を学校全体で共有する。 3 課題研究日と関連付けながら自立活動の目標検討会を計画実施する。話し合う内容を明確に周知し、指導内容や児童生徒の学習状況の様子について教員間で意見を出し合いながら個に応じた自立活動指導の充実につなげる。 4 課題研究Aと関連付けながら自立活動事例シートの共有や作成を推進し、課題研究日や学年会等で事例の紹介を行う。	B	A : 48% B : 49% C : 2% D : 1%	評価項目 なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	1 研修部と連携しながら目標設定シートの活用について学部単位で研修を行った。中心的な課題抽出について難しさがある。 2 専門家助言による事例検討会1回目を計画実施し、学部内でその結果を報告共有した。 3 これまでに作成された自立活動指導事例シートや過去の専門家助言の事例検討会記録を各学部内で回覧したり、共有したりすることができた。
		・自立活動の充実を促進し、個に応じた指導力の向上を図る。					改善策	1 目標設定シートの中心的な課題抽出の方法について作成をしながら教員間で話し合い理解を深められるようにする。 2 専門家助言による事例検討会2、3回目の計画実施後は、学校全体で指導助言や事例報告を共有できるようにする。 3 自立活動指導事例シートの作成と事例蓄積に取り組むよう各学部や研修部と連携しながら進めていく。

研修部	4 教職員の人材育成と専門性の向上 ①学び続ける教職員による授業力の向上	(継続 ・ 新規)	1 昨年までの成果をもとに、3つの学校課題研究が、スムーズに他学部でも広がりを見せられるように、研修部全体、研究係、研究推進委員会、研究推進グループの情報の共有と連携を図る。 ・ Teams等を活用して事前に研究の進捗状況を整理し、7回の研究推進委員会を45分以内に実施する。 2 ファシリテーター育成の研修を各学部1回以上実施して、有意義な話し合いの場を支える人材を育成する。	B	A : 46% B : 52% C : 2% D : 0%	評価項目 なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	1 研究推進委員会のメンバーが中心となり、各学部の実情に応じておおむね計画どおりに実施できた。しかし、係間での進捗状況、課題等を話し合う機会が十分でなく、情報共有での課題が見られた。 2 ファシリテーター育成の研修を、研究推進グループメンバーや各学部等で実施し、その役割や必要性の理解を深めることができた。また、その実践の場として、夏季休業中の教科部会等を設けたが、担当者の中には不安を感じる様子が見受けられた。
		・ 研究推進の実践と効果的なケース会議遂行のための人材育成を推進する。					改善策	1 計画的に係会を実施し、お互いの取組の共有、課題の検討を行うことができるようにする。 2 ファシリテーターの実践を積み重ね、教員一人ひとりが自信をもって担当できるようにする。
情報部	4 教職員の人材育成と専門性の向上 ①学び続ける教職員による授業力の向上	(継続 ・ 新規)	1 ICTを活用した授業に関する研修や情報モラルや情報セキュリティに関する研修等を定期的に実施する。(ICT支援員と連携し毎月実施) 2 情報教育Q&Aの定期的な情報更新を行い活用を促す。(毎月データを追加) 3 メールや個人情報などの情報漏洩に関する注意喚起を行う。(県からの連絡や新聞記事などから)「学習指導部と連携」【情報化・データ管理】【情報教育係】	B	A : 54% B : 46% C : 0% D : 0%	評価項目 なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	・ 夏休みにはExcel、PowerPoint、教材の紹介などの研修を行った。2学期以降はBitLocker設定方法など短時間で質問できる研修の機会を確保した。また、職員向けの情報モラル研修をFormsを利用して複数回行った。 情報モラルに関する意識を高めることが課題。
		・ 情報教育に関する教職員の授業力の向上を図る。					改善策	・ 情報モラルについては短時間で定期的に繰り返し行える研修を今後も継続して実施していく。 ・ ICT支援員さんと連携して必要な研修も計画していく。 ・ 情報教育Q&Aの定期的な更新や校務支援システムの掲示板などを利用して必要な情報を伝えていく。